

たにがしらっこだより 20号 R2.12.4

今年も残すところあと1ヶ月となりました。少しずつ寒さも厳しくなってきた、冬の足音を感じているところです。明日はいよいよかかしっこ発表会です。

コロナウイルス感染症も収束の兆しが見えない状況の中、インフルエンザも流行する時期ですので、引き続き体調管理に気を付け、早めの対応をお願いしたいと思います。

◎火をたくこと

寒くなると暖かい火が恋しくなります。谷頭こども園では、毎日火を焚いています。ご飯は年長組の子どもたちが米を洗い、毎日かまどで炊いていますが、それ以外にも焼き芋をしたり、するめやめざしを焼いたりします。食べ物だけではなく、お湯を沸かし、足湯もします。寒い日は足湯で温まり、また遊びに走っていきます。火は場合によってはとても怖いものです。特に子どもの火遊びは、火事の原因になったりしますが、危ないからといって火に触れないと、正しい火の扱い方は身につけません。焼けたものをすぐ手にするととても熱いこと、火の粉が飛んでくること、いきなり大きな薪では火はつかず、小さい枝などから火をつけていくこと、火が小さくなったら薪を燃やすことなど、直に見ることで学んでいきます。家庭で火をたくということがほとんどなくなってきているこの時代だからこそ経験させたいです。

◎主体的に動くとは

最近よく「主体的に・・・」という言葉を目にします。主体的とはいったいどういうことをいうのでしょうか？調べてみると「自分の意志・判断で行動すること」とあります。以前は保育者が用意したものを、クラス全員が同じ遊びや活動をするという保育者主導型の保育でしたが、現在は園庭も室内の遊びも、すべて自分で遊びを選択しています。はじめは何をしていいかわからなかった子どもたちも、今では遊びを選択し、進めています。遊びだけではありません。トイレに行ったりするのも、個人の生理的欲求は違うはずなのですが、一斉にトイレの前に並び順番を待つ姿がありました。しかし今では自分の行きたいときに行くという形をとっているため、トイレの前に並ぶ姿はありません。決められた時間に行かないからといって、おしっこが漏れてしまうということもそれほど多くはありません。

やはり大人側が「あれして」「こうして」「これはだめだよ」と指示を多く出しすぎると、子どもたちは自分で考えることをしなくなり、いつも支持を待ったり、わかっているのに尋ねたりすることが多くなってきます。先日テレビを見ていると、有名な元プロ野球選手が、ある球団の選手のことを「指示待ちの姿勢がみられる」と話していました。プロ野球選手でも？と私はびっくりしたのですが、主体的に動くことの大切さを改めて感じました。「小さいから何もわからない」ではなく、小さい時からこそ自分で考える場面を多く体験させることが、その後の成長発達に大きく影響するのです。